

歴史を感じると古道

増毛(ましけ)町は札幌の北約100キロ、日本海に面し、ニシン漁で繁栄した。豪商の建物や終着駅に栄華の跡が見える。花の百名山・暑寒別岳(1492メートル)では高山植物が咲き乱れ、幻となっていた古道「増毛山道」が復元されていた。山道の体験トレッキングに参加して、歴史の重みを感じた。

(編集委員・福井広信)

北海道・増毛

増毛山道(増毛・浜益)は江戸時代の安政4(1857)年、北方警備を目的に開削された。アイヌ民族が使っていた道が元になった。断崖絶壁が続くため必要とされた。



山道には、郵便や荷物の中継所の「駅通」が設けられ、生3年、開削した伊達家の子活道路としても利用されていた。孫、伊達東さん(増毛山道の会会長)は「山道の全容を解通が廃止され、忘れ去られた。明したいと思つたようになっ

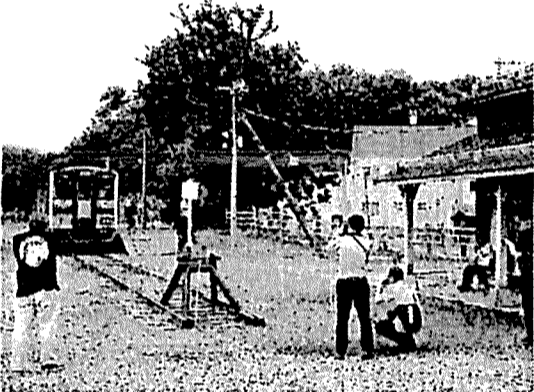


増毛山道を歩く体験トレッキングの参加者

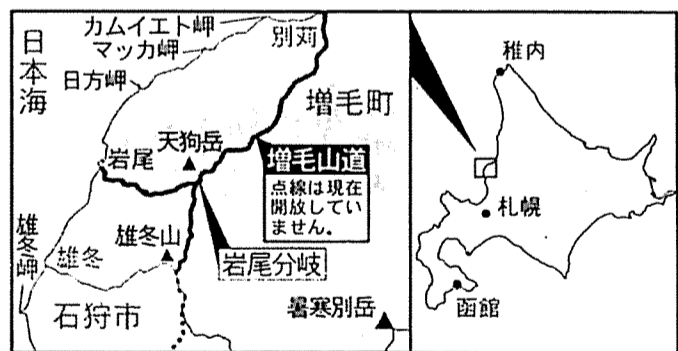
アイヌ民族の利用した道が元に

「と書いています。同会事務局長で測量設計会社経営の小杉忠利さん(75)が2005年、伊能大図展で、増毛山道を知って驚き、復元を決意。測量技術を生かし、航空写真を撮るなどして古道の位置を特定した。米軍が撮った写真も参考になった。08年から、復元作業を始め、倒木や笹やぶを切り開いた。ルート標識200枚も設置した。ルートは計32キロ。9月中旬に全面開通の予定だ。

初級者トレッキング(11キロ)でも、標高差700メートルと登山に近い。朽ちた電信柱や「水準点」が、近代化に向けて疾走した歴史を思い起こさせる。同会事務局を担当する飛渡秀穂さん(69)は「登山と違って荷物を持って歩くことを考えると、現代人の想像を絶する厳しさ。感銘しています」と語り、小杉さんも「生活道路なので風を避けるコースを



廃止を惜しむファンが増毛駅へ到着した列車を撮影(19日、増毛町提供)



選ぶなど、随所に工夫がみられる。往時の古道が完全に残っている。「土木産業遺産」としてふさわしいと評した。暑寒別岳は増毛山地の最高峰で、名前の由来は、アイヌ語で「滝の上にある川」を意味する「シヨカアンベツ」。日本海からの冬の季節風が厳しい豪雪地帯で、夏にも残雪がある。「日本百名山」でもある。1990年に「暑寒別天売焼尻国定公園」に指定された。最大の楽しみは10種類を超える高山植物だ。増毛側からの登山ルートは2本。暑寒ルート(10キロ)は見晴らしの良いコース。2カ所のガレ場が険しい。暑寒ルート(9.5キロ)は花のルートだ。箸別ルートを登り、暑寒ルートを下った。8合目付近、残雪の上を吹き抜ける涼風

と、咲き誇るお花畑に、疲れを忘れた。途中に山盛りのヒグマのふんなどが約20カ所。鈴やホイッスルが必需品だ。

JR増毛駅と留萌線の一部(留萌―増毛間)は12月4日で廃止となる。増毛駅は大正10年(1921年)開業。高倉健さん主演の映画「駅」の舞台だ。映画で「風待食堂」として使われた駅前の観光案内所で、従業員の仙北近江さんは「1年前に廃止が伝えられた翌日からお客さんが増えました」と話していた。

親子で訪れた札幌市北区の会社員中居満さん(55)は「小学校6年まで増毛で育った。寂しい。『網走番外地』のロケを見に来た覚えがあまりありません。雪の中で健さんと星由里子さんの別れのシーンを撮っていました。昔は引き込み線がいっぱいあった。線路や駅舎は残ったほうがいいです」と語った。同町は増毛駅などの活用方法を検討中だ。

休日の際は、駅や重要文化財の豪商の建物跡、最北の酒蔵を訪れたり、甘エヒやウニ、サクランボなど特産物を求める観光客でにぎわっていた。

【XET】増毛山道は一般公開をしていない。体験トレッキングの問い合わせは「増毛山道の会」事務局・平日午前中(電話0164・56・0003)。詳細は「増毛山道の会」ホームページ参照。今年も8回開催。

増毛町観光などの問い合わせは増毛町観光協会(☎0164・53・3332)へ。